

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：交通意識分析	
日付：11月 1日 土曜日、セッション時間：16:45～18:15	
司会者名（所属）：若林拓史（名城大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>本セッションは、「環境配慮交通意識分析」とでもいえるセッションであり、環境保護戦略のあり方、MM をどう成功に導くか、自動車の放棄と代替交通手段という異なった観点からの研究発表とディスカッションが熱心に行われた。政策展開の多様性とモデル開発とのリンクが重要であるという知見を共有したのが本セッションでの成果である。</p>
	<p>（13）倉内慎也（愛媛大学）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力の強さと協力率は特定の人が頑張ると解釈してよいか？、に対しもう少し多めの人々を想定しているとの回答がなされた。 ・アンケート分析では寄付率を内生的、協力の強さと協力率を外生的に捉えられるがどうか？、に対し3つとも内生変数である、との回答がなされた。 ・ にログサム変数を用いているかの観点からの質問と回答がなされた。 ・ 総ポイントの大小によって商品との交換あるいは植樹行為の選択に差が出るのではないか？ ・ 「上方比較」「下方比較」は当の本人には見えないのではないか？ ・ エコポイントを獲得しようとするインセンティブを与えるモデルが相補的に必要ではないか？等についての質問と回答がなされた。 ・ 政策への implementation はどうか？、に対し、政策展開により変化するとの回答がなされた。
	<p>（14）谷口綾子（筑波大学）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表 1 は Logit モデルのマルチタイプとして表現されているが、Nested Logit モデルとして記述できないか？、に対し検討するという回答がなされた。 ・ 交通よりも税金に対する意識、暫定に対する意識ではないか？、に対し、そのとおりかもしれない、との回答がなされた。 ・ 道路特定財源に対しては学生や世論がかなり少ない情報で判断していると思う。どう思うか？、に対し、事前情報の与え方に差を設けた方法を試み、結果に有意差はあったが、予想した結果とは逆になったので注意が必要と思う、との回答がなされた。 ・ 意識・構造分析の方法、心理プロセスに対する質問と討議がなされた。 ・ 政策への implementation は？、に対し、環境を政策に使われることは怖いと思う、との回答がなされた。

(15) 太田裕之 (東京工業大学):

・PMV の重さは? , に対し, 現在のところ十数キログラムであるが, 将来的にはカバンに入る程度の軽さを想定している, との回答がなされた .

・空港などでは荷物が多いのでどう使うか? , に対し, 前傾させることで対応できる, との回答がなされた .

・トリップ目的により選択が異なるのではないか . 歩いて楽しいのは 歩くことか, ふれあうことか, PMV は 機材の操作が楽しいのか, 風景との interaction が楽しいかで選択が変わってくる . PMV が普及すれば, 自転車と同様にありふれた乗り物になって新鮮さは失われる, というコメントに対し, クルマ (大きな乗り物) から PMV (小さな乗り物) へとかしこくクルマを使うという立場である, との回答がなされた .

・どうして MPV の研究をしたのか? , に対して, 利用場面は, うんと軽量化して電車からレストランへの移動や, 短距離の自動車利用の代替を考えている . 徒歩では長すぎ, クルマでは短すぎる移動への適用を考えている, との回答がなされた .

以上